

学級活動（１）指導案

1. 日時・場所 令和3年7月7日（水）13時30分 ～ 14時15分

2. 議題 「あいさつでONETEAMになろう」

学級目標

ONETEAM

（心を一つにして絆を深める）

3. 議題について

（１）児童の実態

明るく、新しい活動にも進んで取り組もうとする前向きな気持ちをもつ児童が多い。4月に学級目標を決める際には、学年テーマ「キラ☆トモ（互いに認め合い一緒に成長する）」の元、「友達のよさを認め合う」「絆を深める」「みんなで成長する」という言葉が多く集まった。それらを達成するために「ONETEAM」になろうという思いから決定した。5月に行った共生＊共育の「友達のいいところ見つけ」では、普段から仲のよい友達だけでなく、接することの少ない友達のよさも自分から見つけることができていた。他教科の授業で地域から来校したゲストティーチャーやボランティアの学生に対しても自然に話しかけて仲を深めようとするなど、人とのかかわりを大切にしていると感じる。一方で、授業中や話し合い活動では、話し手に意識が向かず注意がそれてしまったり、自分の考えに自信がなく、友達の考えに流されてしまったりといった課題もある。

そのため、学級では、少人数で身近なテーマについて話し合う「キラ☆トモタイム」を重ねている。導入では、ただ「聞く」とこと、話し手に寄り添う「聴く」との違いを確認した。話し合いをする時のポイントを共有することで、だんだんと相手意識をもって「聴く」ことができるようになっていく。友達の意見につないでいくことの大切さも伝えることで、意見を発表する際に友達の名前が出てくるようになっていく。

また、係活動では、自分たちがしてみたい活動がクラスをよりよくすることにつながっているかを意識しながら定期的に取り組んでいる。自分の思いを実現できた経験が、自信をもって考えを発信する姿につながっている。

（２）これまでの学級活動の取組

第1回目の「みんなが仲よくなるパーティーをしよう」では、発言力のある児童に押されてしまい、少数意見がなかなか通らないまま終末を迎えてしまった。学級会後の振り返りでは、「自分の意見を否定されるのが怖い。」という意見が多かったため、互いの意見を尊重し合うことや友達の考えをつないでいくことの大切さを確認し合い、全員が参加できる学級会を目指すことを目標にした。第2回目では、「もっとみんなが楽しめるパーティー」を成功させるために、前回の反省を生かしてたくさん意見が集まった。まとめる段階において、折り合いがつかず意見が決まるまでに時間がかかったものの、1回目に比べて係活動と協力できる遊びを考えたり、解決方法をみんなで探ったりと、学級全体の話合いの力が高まっているような場面が見られた。その後も学級会を重ねる中で、「もっとクラスをよくしていきたい」という思いが高まり、互いの思いを伝え合い、真剣に参加しようとする態度も育っている。しかし、まだまだ自分の意見を伝えることに苦手意識がある児童もいる。そのため、教師側も自信をもって話し合いが進められるように支援していきたい。

（３）議題選定の理由

「あいさつ係」という係がある。係の児童は、「クラスのみんなにあいさつのよさを広めたい。」という思いで、係を立ち上げた。これまでに、あいさつが自主的にできている児童に賞状を渡したり、

chromebook を使ってあいさつの意識調査を行ったりと活発に活動してきた。また、本校の代表委員会は、児童が主体的に活動に取り組んでいる。昨年度の120周年記念式典に向けての活動では、住吉小のマスコットキャラクターを作ったり、記念式典で何ができるか考えたりした。毎月の代表委員会では、テレビ中継でつながり、議題について話し合う様子を見ている。そうした高学年の頑張っている姿を見て、低学年もクラスや学校のメンバーとして「もっと自分たちでクラスや学校をよりよくできないか」と、いう思いが育っている。5月の代表委員会では、昨年度提案された「ウーバースマイルプロジェクト（学校に笑顔を届けてよりよくしよう）」を今年度も継続していくことが決定した。そこで、クラスでもどんな活動をしていくか話し合い、「あいさつのよさを学校に広めてみんなで笑顔になる」に決定した。あいさつをする際に、「笑顔・思いやり・自分から」のキーワードを大切にしながらあいさつを広める活動を継続していった。その中で、あいさつ係から「みんなのあいさつが活発でない」という切実な思いが議題箱に寄せられた。また、クラス全員の意識を確認するためにあいさつ係がアンケートを行うと、進んであいさつができていない児童がいることがわかった。これをあいさつ係がクラスに伝えた際、「みんなであいさつをして仲良くなりたい」という思いをクラス全体で共有した。そこで、本議題を「あいさつでONE TEAMになろう」とした。

今回の学級会では、話し合いの柱を1本「どんな活動にするか」とし、あいさつで仲良くなる方法について話し合う。あらかじめ意見を集めておき、比べる段階から話し合いをスタートすることで、じっくりと考えながら話し合いに参加して欲しい。また、chromebook のジャムボードを活用し、賛成意見や心配意見がよりわかりやすい環境をつくることで、全員が自分事として話し合いに参加して欲しい。

4. 評価規準

	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
3 年 ・ 4 年	みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。

5. 活動の実際

(1) 事前の活動

活動の場	・児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
5月31～ 6月24日 まで	・ウーバースマイル活動を実行する。	○協力したり、工夫したりしている児童を価値付けする。	☆合意形成したことをもとに、みんなで協力し、進んで活動に取り組んでいる。 【主体的態度】〈観察〉
6月25日 学級の時間	・ウーバースマイル活動について振り返りを行う。	○あいさつ係のアンケートを使って、クラスの実態がわかるようにする。	☆学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために自分の意見を記入している。 ☆議題に対して関心を持ち、話合いの見通しをもっている。
6月29日 中休み	・計画委員会で、役割分担を行い、話合いの進め方を確認する。	○計画委員会において、役割分担を行うとともに、話合いの進め方を確認するよう助言する。	【思考・判断・表現】〈観察〉 ☆話合いの進め方について理解している。 【知識・技能】〈観察〉
7月2日 学級の時間	・chromebookに自分の意見を記入する。	○柱①の「何をするか」について自分の考えを書くように伝える。このとき、話合いのめあてを意識するようにする。	☆提案理由やめあてに合った自分の考えを記入している。 【思考・判断・表現】〈観察・chromebook〉
7月5日 中休み	・出された意見を整理しながら、学級会の進め方について最終確認をする。	○一人一人の意見を確認しながら、話合いの流れを予想したり、時間配分を予想したりして、司会グループが落ち着いて学級会を運営できるように一緒に準備を進める。	☆計画委員の運営や話合い活動計画について考え、準備をしている。

(2) 本時の活動

①ねらい あいさつを通してみんなが仲良くなるために、友達の思いを受け入れながら協力して行える活動話し合って決めることができるようにする。

②教師の指導計画

話し合いの順序	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿【観点】 (評価方法)
1. はじめの言葉 2. 計画委員(司会グループ)の紹介 3. 議題の確認 「あいさつでONETEAMになろう」 4. 提案理由の確認 「ウーバースマイル活動について振り返りをしたところ、あいさつが活発にされていないことがわかりました。そこで、クラスのあいさつが活発になればみんなが仲良く、ONETEAMになれると思い提案しました。」 5. 話し合いのめあての確認 「あいさつでもっと仲良くなるよう」 6. 決まっていることの確認 ・7月の全校集会でどんな活動をしているか発表する。 ・後期の全校集会で活動の様子を発表する。 ・全員で発表に参加する。 7. 話し合い 話し合うこと 「どんな活動にするか」 8. 決まったことの確認 9. 話し合いの振り返り 10. 先生の話 11. おわりの言葉	○見通しをもって話し合いができるように、決まっていることを事前に確認しておく。 ○提案者の思いが提案理由に表れるように事前に確認をしておく。 ○「みんな」の中に、クラスだけでなく、学年全体の人も含まれていることを確認しておく。 ○事前に「出し合う」は済ませておき、「比べ合う」から始めることで、話し合いの時間を十分に確保できるようにする。 ○話し合いのめあてからそれた場合は、めあてを再度確認するよう声をかける。 ○できるだけ自分たちで決定できるように見守り、話し合いが行き詰まってしまった時には助言する。 ○chromebook のジャムボードを活用し、賛成意見や心配意見がよりわかりやすい環境をつくる。 ○話し合いのめあてからそれた場合は、めあてを再度確認するよう声をかける。 ○友達の思いを想像し、そこに寄り添って聞こうとしたり、相手に応えるために自分の思いを伝えようとする姿を見取り、本時や事後の活動などに生かせるようにする。 ○司会グループのがんばっていた点、めあてや友達を意識した意見や態度などを見つけて称賛し、意欲をもって実践できるようにする。 ○chromebook のアンケートに記入することで、振り返りが共有できるようにする。	☆計画委員として司会や記録などの役割を果たして話し合いを進めている。 【思考・判断・表現】 〈観察〉 ☆友達の考えを認めながら、よりよい解決方法や実践の仕方を考えて話し合いに参加している。 【思考・判断・表現】 〈観察・chromebook〉 ☆みんなで決めたことの実践に向けて、期待を抱いている。 【主体的態度】

③本時の視点

- ・ chromebook のジャムボードを活用したことが、互いの意見を比べ合うための手立てとして有効であったか。
- ・ 話し合いのめあてに向かって、話し合っていたか。

④板書計画

第 5 回 学級会

はじめの言葉
 司会グループの紹介
 議題「あいさつで ONE TEAM になろう」
 提案理由
 「ウーバースマイル活動について振り返りをしたところ、あいさつが活発にされていないことがわかりました。そこで、クラスのあいさつが活発になればみんなが仲良く、ONE TEAM になれると思います提案しました。」

話し合いのめあて
 「あいさつでもっと仲良くなるよう」

話し合い
 話し合うこと
 「どんな活動にするか」

決まったこと
 話し合いのふりかえり
 先生から
 おわりの言葉

決まっていること

- ・ 7月の全校集会でどんな活動をしているか発表する。
- ・ 後期の全校集会で活動の様子を発表する。
- ・ 全員で発表に参加する。

(3) 事後の活動

活動の場	児童の活動	○指導上の留意点	☆目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
7月14日 全校集会	・ 集会で自分たちの活動を発表する。	○意欲が高まるように、 meet で全校に発信する。	☆目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉 ☆役割分担に基づいて協力して準備を進めている。 【思考・判断・表現】 〈観察〉 ☆集会のめあてを意識して、友達と協力して活動している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉 ☆活動に対する自分の取り組み方や、学級全体としての実践を振り返り、今後の学級活動への見通しをもって取り組もうとしている。 【主体的態度】 〈chromebook〉
12月1日 (火)	・ 集会の役割分担をする。	○これまでの経験を生かし、必要な役割を考えて全員で分担できるようにする。	
12月2日 (水)～ 休み時間	・ 集会に向けて準備をする。	○準備の進捗状況を確認し、活動意欲が継続するように声をかける。	
12月15日 (水) 全校集会	・ 全校集会で活動の様子を紹介する。	○達成感がもてるように、 meet で全校に発信する。	
12月17日 学級の時間	・ chromebook の振り返りカードを書く。	○次にどんなことをしたいか、また今回の課題をどのように次に活かしていきたいかを、中心に考えられるよう助言する。	